



小学校“楽しい”音楽科の授業づくり【鑑賞編①】



令和2年度 会津教育事務所



鑑賞の授業が、いつも「曲を聴いて感想を書こう」になってしまうのですが…。

良い質問ですね！一緒に解決しましょう！



学習指導要領 内容 B鑑賞（1） には、

【1・2学年】

- ア 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏の楽しさ（3～6年：よさなど）を見だし、曲全体を味わって聴くこと。
- イ 曲想と音楽の構造との関わりについて気付くこと。

【3～6学年】

- イ 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気付く（5・6年：理解する）こと。

とあります。

ポイントは

イ 曲想（及びその変化）と、音楽の構造との関わりについて気付く（理解する）こと。

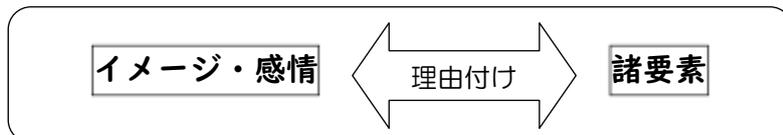
です。



音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、和音の響き、音階、調、拍、フレーズなど
反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横の関係など

これらがいわゆる、
【共通事項】 = 別名【諸要素（音楽のもと）】

鑑賞で、感じたことを文章で表すときには、下図のように結び付けるのが“コツ”です。



例「小鳥の鳴き声に聞こえるのは、チェロではなくバイオリンの高い音で弾いているから。」

「木管楽器の柔らかい音色でなめらかな旋律を静かに演奏しているから、教会の中で静かに祈っているように感じられる。」

すべての諸要素に注目させるのは大変！ そこで、先生が焦点化します。



そのためには、教材研究をしなければいけないのですが、そもそもどんなふうに聴いたらいいのかわからなくて……。

それもそうですね。では次回から、『教材研究シート』を掲載します。お待ちくださいね！

